

第4回 旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議 議事要旨(案)	
委託名	旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議運営支援業務委託
日時	令和5年5月30日(火) 18:30~20:30
場所	武蔵野プレイス4階 フォーラム
出席者(敬称略)	
委員	光田座長、内川副座長、阿部委員、塚本委員、深谷委員、吉清委員、大塚委員、藤本委員
	※深谷委員はオンライン参加
事務局	武蔵野市資産活用課長 他3名

1. 開会

(1) 配布資料の確認

2. 議事

(1) 前回の振り返り(議事要旨の確認)

(座長)これまでの振り返り、議事要旨について事務局より説明をお願いします。

(事務局)資料1の議事要旨(案)を説明します。第2回市民ワークショップの実施状況等として、シール投票の結果、「五感を満たす憩いの場」という意見が多かったことなどをご報告しました。次に、今後の利活用に係る検討を進める上での論点整理についてご意見をいただき、これまでの意見をカテゴライズし、これに紐づけていく形で整理すると話がまとまりやすいのでは、といったご意見をいただきました。また、今後の利活用にあたり、あの環境そのものを味わいたい、あの場所に身を置いて時間を過ごしたい、といったことが重要になっていると感じており、あまり決め込まないで運用する方法を模索し、皆で議論しながら進めていく場になればいいのでは、といったご意見をいただきました。

5ページ(4)では、目指すべき将来像、テーマやコンセプト、保存・利活用に関する基本方針、具体的な利活用検討について、意見交換をいただきました。開口部等のオリジナルのディテールは、建物と庭の関係性を語るうえでは最も重要で、断熱性といった観点で本来の形を変えてしまうと価値が下がってしまう。建物と庭との関係性は大事で、窓のデザインはそれを裏付ける技術であり、こうした技術は大事にしたいといったご意見がありました。一方で、現実的に管理できていくのかといったことや、藤棚の取扱いをどうするか、といった問題提起もありましたが、歴史を守りつつ次世代に伝えていくといったことはコンセプトとして合意できるのではないかと、といったご意見がありました。

その他、お金を稼げる仕掛けがあっても良い、子供も日常的に使えここの魅力が伝わるものであればよい、使い方のどこにラインを引くか検討が必要、庭の緑のあり方、修道女会の歴史や様々な使い方、景観といった要素を踏まえ、旧赤星邸の部分と増築棟部分をどうとらえるか、塀についてなど、次回以降引き続き議論が必要な要素について、様々に意見交換をいただきました。

補足として、前回の会議でご紹介した、青少協第一地区主催で開催された「一小・一中地域(本町・中町)住民による旧赤星邸の利活用に関するグループディスカッション」については、参加者数は30名、内訳として現役小中PTAが18名、50代~60代が9名、80代以上が3名という出席状況で、市が公表している資料の「庁内ワーキング報告書」、「見学ツアー動画」を利用してディスカッションしたということでした。

(座長)議事要旨についてはこれで確定したいと思いますがいかがでしょうか。

(一同)同意

(座長)それでは(案)を削除し確定とします。

(2) 市民ワークショップの実績報告等

(座長)市民ワークショップの実施報告等、事務局より説明をお願いします。

(事務局)それでは、資料2をご覧ください。5月14日に実施し、36名の参加がありました。市からの情報提供の後、第3回、第4回で継続して具体的な利活用アイデアを考えていただくことを踏まえ、グループワークを行いました。市からの情報提供としては、旧赤星邸の竣工写真をお見せしながら、有識者会議の意見を紹介し、参考となる事例紹介も行いました。グループワークについては、まず「大切にしたいこと」「利活用イメージ」「仕組みや留意事項」を整理した一覧表に対して、修正や追加を行ったうえで、「利活用イメージ」のうち、今回掘り下げる利活用アイデアをグループ内でシール投票し、意見交換を行いました。シール投票の視点として「まず自分たちで取り組みそう」「旧赤星邸としてできたらいいな」の1人2枚を用意しました。そして、シール投票と意見交換を元に、各グループでさらに2つのチームに分かれて、利活用アイデアを「利活用検討シート」にまとめました。最後に、「利活用検討シート」を発表し、全ての班の「利活用検討シート」に対して、全体で1人3票のシール投票を行いました。この際のシール投票も多数決で決めるのではなく考えの傾向を共有する目安としております。次回のグループワークでは、「利活用検討シート」の作成の続きを行い、社会実験につなげることを意識して、しくみや手法、実施体制も含めて深掘りする予定です。

(座長)質問ですが、出された意見について、書かれていない視点の番号もありますが、その班では議論されなかったという認識でよろしいですか。

(事務局)グループディスカッションでは、その班ごとに話している内容は異なりますので、ご認識のとおりとなります。

(座長)そのほか、感想や進めていくと良いと思う提案はありますか。

(D委員)当日は私も拝見しました。将来的な利活用を考えつつ社会実験にもつながるように、すぐに取り組みそうな内容と、できたらいいなという内容をワークでは分けてはいたのですが、印象としては、将来的な内容の発表が多かったように思います。社会実験は今年度行う予定がありますので、次回は、将来的なことと社会実験に向けてすぐにできそうなことを分けて話してもらえると、社会実験に繋げやすいかと思っております。

(事務局)次回のワークショップの中で、再度振り返っていく必要があると思っています。

(副座長)各班から出された意見をみると、6班中4班では赤星家やレーモンドなどの利活用という意見でした。赤星家やレーモンドというのは欠かせないキーワードだと、ワークショップに参加の皆さんも認識しているということだと思います。

(座長)利活用としてはマルシェや自由にのんびりしたいというのは前回から上がっていましたが、修道女会の遺産をきちんと引き継いでほしいということや、市民による祝福の場というのはレーモンド建築の価値を伝えるということでもあるので、全般にレーモンドの作った赤星邸というところに関心の高い班が多かったという感じがしました。

(A委員)庭の使い方、整備の方向、大らかで豊かな環境に向き合うことはよいのですが、その上で例えばこの木はどうするかといったときに、それを判断する根拠をどう考えていくのかを今後詰めていく必要があるという気がしました。出てきた意見はマルシェとかカフェとか、公園の一般的なイメージなので、ここならではものがあるのかどうかを模索していく必要があると思います。

(座長)次回のワークショップでは、藤棚や庭のことについても注意を向けていただくという工夫もあっていいのではと思います。

(F委員)ワークショップに参加されている方の年齢層を教えてくださいたいのと、6班のシートに「濱家住

宅西洋館」とありますが、市からレクチャーはされたのでしょうか。

(事務局)50名を想定して募集したところ100名近い方からの応募があり、年齢構成に配慮して20代から80代まで抽選により決定しました。そのため、多様な意見が出ているという印象があります。「濱家住宅西洋館」については、市から情報提供はしておりません。

(F委員)共通しているのは市民のための場と歴史文化の継承という視点が多かったようですので、そこは考えていかなければならないと思いました。歴史文化の継承に係る関連情報としてお伝えしますと、第一小学校が今年150周年を迎えますが、校歌が野口雨情の作詞で、野口雨情自身も吉祥寺本町の辺りに住んでいたと言われていました。校歌ができたのは昭和10年で、実際に建物があつた時期なので、もしかしたら会っていたかもしれないという仮説を立てながら、野口雨情関連のイベント等もできるのではないかと思います。

(座長)先ほど案内のあつた青少協の資料もその地域からのものなので、関心を持っていただいているということだと思います。私もワークショップを見ていましたが、年齢構成も各班でバランスはとれていたように思いましたし、発言も誰かが圧倒してしまっているという感じではなかったかと思えます。

(E委員)私も当日この場にいましたが、年齢構成も各班で分かれていましたし、活発な議論がされていたという印象でした。建物については明確にこうしたいという意見が書かれていた一方で、庭をどうしたいという意識は薄いのかなと思いました。6班のシートでは庭や樹木について細かく書かれており、非常に詳しい方がいらしたのだなと思いました。ただし、みなさんでこの樹木や庭の話をも議論した時に、どこまで盛り上がる議論ができるかは少し疑問に思いました。

(座長)次回のワークショップでは、庭や庭の歴史等にも注目がいくように紹介いただけるとよいのではないのでしょうか。

(C委員)現状のままでもかなりポジティブに、参加者がこの場を評価されていると感じました。それが一番大きな財産ではないのでしょうか。何をどうやって整備していく、どう残していくということもありますが、今ある建物と庭の佇まいが受け入れられている、というのが大事なポイントであると感じました。

(座長)4班ではナミュール・ノートルダム修道女会のようへき(擁壁)という言葉と、修道院に守られていたような空気感を継承してほしいというようなことが書かれていますが、関連して何か思いつくことはありますか。

(C委員)修道女会があつた時は、この土地は基本的には私有地であり、ごく一部の方のみ入れたので、よくご存じの方々からの発言ではないかと思いました。

(副座長)6班のアニメの要素で維持管理費に見合う収益を得るとするのは、どういうことを指しているのでしょうか。

(座長)アニメの舞台を聖地として訪れる方が一定数おられますので、入場料やグッズ販売等何らかの方法で収益を得るという意味合いだと思います。

(B委員)市民が自分たちで議論しながらやるという意見があるのは、これからの公共施設のあり方を市民が模索していると思いました。ヨーロッパでは、市民参加で税金の使い方を決める動きもあります。ここでも、市民が予算を取りにいくような活動があればよいと思っています。

(3) 一般公開ウイークの実績報告等

(座長)事務局より説明をお願いします。

(事務局)それでは、資料3をご覧ください。令和5年5月10日から16日で一般公開を実施しました。申込不要で順路にそって見学する方式とし、庭も自由に見学可能としました。入場者数は、7日間通して、4,917人、最も多い日は最終日で1,125人でした。次に公開期間中、誘導業務にあつたスタッフが見学者から受けた主な質問について、その場で回答はしませんでした。現時点で市が把握している

情報を右列に記載しました。なお、現時点で市が把握している情報については、赤星鉄馬の長女 秋子の長女であり、鉄馬の孫にあたる方から直接ヒアリングを実施したことを踏まえて記載しております。なお、質問事項にはありませんが、2階インナーバルコニーの改修履歴として、参考資料7よりノートルダム修道女会が所有していた際に改修されたことがわかります。また、近接する第一小学校の副校長や成蹊大学学生より、一般公開をきっかけとして利活用案等が寄せられました。今回の公開で約5,000人の方が訪れたことによって、今後の利活用や維持管理において見えてきた課題を列挙しておりますので、改めて考えられる利活用方針や活用上の工夫等について、ご意見をいただければと思います。

(座長) 質問や、出された意見等を踏まえたうえでご意見がありましたら、お願いいたします。

(副座長) 実際に施設がオープンしてもこれだけの人数にはならないとは思いますが、お手洗いの問題や芝が剥げるというようなことは、考えすぎると建物の価値を損なうことにもなり、その辺りは冷静にプランニングしたほうがよいと考えます。庭の遺構については、私も含めて気にされている方々がいるので、しっかりと精査し検証していく必要があると思います。また、5,000人からの方からいただいたご意見は貴重な検証の材料になりますので、利活用に向けた素材として十分に検討すべきものであると思われました。

(A委員) 多くの方々に来ていただいて良かった一方で、芝生が剥げてしまったというのは気がかりで、公園とする部分ではありますが、子供たちが芝生の上ではしゃぎ回ってという使い方ではないかもしれないという気がしています。少なくとも最初に建てた当時は居間があってその向こうに緑が広がるという風景を作ろうとしていたのであれば、この芝生広場は大事にしていかなければいけないし、公園とするに当たり、赤星邸との関係である緑の空間であるということからは、芝生を使う時は有料のプログラムにする、周辺を回る園路を設けるなど、当時はどうだったかというのを含めてどう使うかは検討していく必要があると考えます。前回の会議で藤棚は移植できるのかという議論がありましたが、今の形状のままでも移植することも可能であるらしく、あしかがフラワーパークなどもそのような技術を使っていると聞いています。ただし設計者の意図によって竣工時はオーニングだったことから、藤棚がどの段階で入ったのぐらい愛着を持たれていたのかということ判断した上で考えないといけないのではないのでしょうか。最初の建築との関係でオーニングにしつつ、藤棚は移植するなどの考えもあると思いました。

(事務局) ヒアリングにて分かったことをご紹介します。当初、庭は芝生が広くあり、今は分譲されている南側部分までが敷地だったそうです。また赤星鉄馬はここでゴルフの練習をするためにバンカーを2つ作るなど、起伏のあるような芝生の庭だったそうです。その後、進駐軍に接收された際に、庭は全て平らに整地され一面芝生にするとともに、大小2つの噴水が設置されたとのこと。今回のヒアリングで、ここに住んでおられた方にとっては、建物の中から見た芝生の庭の景色が強く印象に残っていることを痛感しました。居間やダイニングなどの建物の東側エリアからは庭はよく見えますが、家族のエリアだった建物の西半分からは、増築棟に眺望を阻害されて全く庭が見えない状態にあります。それを親族の方は、昔はここから緑が広く見え南側の自分たちの家の方まで緑がずっと続いていた、としきりにおっしゃっていました。庭から見た建物の眺望もさることながら、建物から見る庭の景色というものが人の印象、記憶に残る、愛着として残る大事な要素であると改めて感じました。ヒアリング内容については、整理をして次回改めて紹介したいと思います。

(座長) 西半分というのは、蔵がある側でしょうか。

(事務局) おっしゃる通りで子供部屋や2階で倉庫や納戸のある辺りが家族のエリアになります。鉄馬のエリアは屈曲した部分の東側で、明確に分かれています。

(E委員) 一般公開で少し残念に思ったのは、フリーで公開してしまうとこのような状況になってしまうのかと

いうところや、芝生もある程度制限しないといけないのではと思いました。武蔵野プレイスの前庭も開館当時は芝生があったのですが、数年も経たないうちに剥げてしまい、開放時にはどのようにすべきか難しいと感じました。また、近隣への配慮としてカラーコーンで区切っていましたが、なければ行きたくなくなってしまいますし、その辺りの配慮もかなり難しいので、個人的には閉鎖型の管理の方がいいのではと、今のところは思っています。

(D委員) 公共施設として、いろいろな方が来られた際のトイレやエレベーター、バリアフリーについては重要に思います。前回の会議で、子どもに対しての学びという話題がありましたが、ワークショップでも子どもや若者にどう魅力を伝えていくのかという話がありました。成蹊大学の学生さんの意見、一小の先生の意見にあるように、市の施設なので子どものうちからこういう場所が記憶に残るようになればと思う一方、走り回って遊ぶような公園とは違うので、過ごし方や庭との関係については考えなければいけないと感じます。

(F委員) トイレはやはり悩ましく、例として湯島の旧岩崎邸は邸内のトイレはほぼ見られない状態でしたが、裏に別棟がありそこをトイレとしていました。トイレは裏の方に新たに作るか、礼拝堂の棟に限定するというのが現実的と思いました。

(座長) いろいろな保存建物を見てみると、本棟のトイレは公開していないことが多いと感じております。

(B委員) 建物の部位の中でも、トイレが一番今の感覚に合っていないものです。リビングルームなどは古くてもよいのですが、風呂、トイレは、昔のものはなかなか生理的に受け付けられないという方も多くですし、実際昔の想定とは違い、もっと幅広い人たちを想定して考えなければいけない時代なので、トイレはやはり独立した別棟で、例えば武蔵野市として公衆トイレはこういう考え方でやっているということが示せるようなものにするといよいのではないのでしょうか。

(C委員) 今回広報活動がすごくうまくいったように思うのですが、武蔵野市としてどういうことをされたのかを教えていただければと思います。

(D委員) すでに反響が高そうなのはわかっていたので、どちらかというと抑え気味にしました。ぜひ取材に入りたいという話が出ていましたが、市として PR は控えめにしてもこういう状況になったということです。スタッフ募集も30名のところ、60名ほどの応募がありました。コロナ後は市で行った他のイベントも盛況で、外に出かける場がかなり求められていると感じます。それがここにはタイミング的にもマッチして集中したのではと思います。

(副座長) バリアフリーの問題について、トイレは外で景観をじゃましない施設を作ればよいと思うのですが、2階を見せるに当たっては、ハード面の整備を建物に施すかどうか大きな問題になると思います。将来重要文化財を目指すとなった場合は、真正性を保つ意味で変更できなくなるなど、そういう仕組みをどうするかは非常に大きな課題だと思います。例えば、階段を登れない等の障害をお持ちの方を招く目を設定し、何らかの手段で2階など建物すべてを見て回れるようにするなどのアイデアを出し、建物そのものの真正性は担保する方向性がないのではないのでしょうか。

(座長) 今の増築部分との兼ね合いもいろいろ出てくるように思います。

(4) 目指すべき将来像(テーマ・コンセプト)、保存・利活用に関する基本方針、具体的な利活用検討について

(座長) 目指すべき将来像(テーマ・コンセプト)、保存・利活用に関する基本方針、具体的な利活用検討について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 前回から引き続き、目指すべき将来像、保存・利活用に関する基本方針、具体的な利活用検討についてご意見をいただくため、前回までのご発言をもとに要素を抽出し、カテゴライズしたうえで、論点1から論点4について整理をしました。資料4では、これまでのご意見からキーワードを抽出し、これらのキーワードを束ねて要素にまとめ、同様にまとめられた要素を合わせて、テーマ性につながる

大きな要素とし、1つ目は「建物と庭の関係」、2つ目は「暮らしの変遷・歴史」にまとめています。そのうえで、これまでのご意見を各論点に紐づけて整理をしたのが資料5になります。資料最下段には、コンセプト案としてテーマ1であれば、「アントニン・レーモンド建築の特徴である建物の中と外の連続性を活かした利活用を行う」としたうえで、これに紐づく保存利活用に関する基本的方針案として3点記載しています。テーマ2についてのコンセプト案としては、1つにまとめていませんが、「歴史や文化的価値を次世代につなげていく」「ここでの暮らしの変遷を知る」「『建築も庭もここにある』という事実を通じて当時の人たちと会話をしていく」といった事を掲げました。これに紐づく基本的方針案として、同様に3点記載しています。なお、論点3の具体的な利活用検討については、これまでのご意見を表中にまとめておりますが、本日の意見交換では結論には至らないと思われるため、事務局案は空欄としております。また、論点4は次回以降の論点として、市民ワークショップや一般公開での意見等も踏まえ、これまでの会議に加えご議論いただきたい点を記載しています。

(座長) 修室棟、礼拝棟以外の本体部分で、部屋の復元が必要な部分がありますか。

(事務局) 本体部分でこれまでの議論を踏まえると復元が必要ではないかと考えているのが、まず開口部のディテールです。次に、2階インナーバルコニーの部分が修道女会時代に改変されていますので、そこをどうするのか。また、各部屋が当時は行き来ができるように開口部が作られていましたが、今はすべてが区切られていて単体の部屋となっています。夫人室がこの建物の中心であったと考えられ、ここからすべての部屋に通じているようなところもプランからは見えてきます。この辺りは、当時のリアルな暮らしを知る上で重要な要素であると思いますので、そこもどうするかはご議論いただきたいと思っています。

(座長) 論点4は今後にということですが、特に論点1について、事務局案に対して、提案や意見を発言いただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

(A委員) 資料4のキーワードについて、益、不益ということがあると思います。変えてはいけないものと変わっていくもの、変えていかなくてもいけないものとする、建物は変わってはいけないものとして、レーモンドが設計した意図、作家性というのは大事で、これは最大限忠実に復元していくというのが重要であると思います。一方で、庭にはおそらく作家性はなく、そこで暮らしていた方が各時代の思いの中で作り上げてきたものなので、時代が動いていく中でどこをベースにしていくかというのが、庭の作り方のなかかもしれません。それと、資料にある人間関係図にレーモンド、吉村順三、前川國男などが書かれていますが、そこにフランク・ロイド・ライトも入れていいのではないのでしょうか。彼の下で学んだという部分では、その哲学は、落水荘などと同じく周りの森や緑との関係、水との関係をすごく意識した室内の作りで、室内からどう見えるか、下で滝が反響しているのが部屋の中に入ってくるようなデザインになっているように思います。そういう意味でライトの哲学はあってもいいと感じました。

(B委員) 今の意見に近いのですが、暮らしの変遷というか、赤星鉄馬の前にレーモンドがいるという言い方もある気がします。レーモンドが最初に暮らし方をイメージし、それを鉄馬が利用し、その後GHQが来て、修道女会という流れは、系譜学的には面白いと思います。その修道女会の次は市民の場であるという形になって、レーモンドから市民までを誰が受け渡してきたかというのが描けていくと面白くて、この赤星鉄馬の前にレーモンドを位置付けるためにも、建物はできるだけオリジナルに戻す、そして不便なところは増築部分や新築するトイレ棟などをうまく利用して現代の暮らしに合わせていくというのはどうでしょうか。庭は生きているのですが、建物は残念ながらだんだん古びていきます。建築のオリジナルは赤星鉄馬の前のレーモンドにあって、変遷した先の市民のところにも新しい庭がある、という形になるといいのではないのでしょうか。

(A委員)トイレのあり方について、別棟の話を否定するのではないですが、もう一つの考え方として、上手く改修する方法もあります。フランスのモン・サンミッシェルは、ロワール地方の古城の邸宅ですがホテルになっていて、外装はそのままですが水廻りだけは現代的にきれいにされています。使い勝手はよくなっていて、かつその当時の空気感も味わえるという、そういう作り方も検討項目の選択肢としてよいと感じました。

(事務局)中階段下のトイレには洗面台と造作家具と照明があるのですが、それらはオリジナルのまま残っており、その辺りは見せる価値があります。ただ使用してきた経緯の中で、便器と洗面ボウルだけは取りかえられています。見せるポイントとして活用は可能だと考えます。

(副座長)トイレ等の施設面については、登録文化財での整備事例があるのではないかと思いますので、もう少しリサーチして保存利活用の資料にできるのではないのでしょうか。

(B委員)先ほど公衆トイレのように整備する案を話しましたが、まとめて整備すると男女に分ける必要がでてジェンダーレスにならないのが日本の状況で、整備のハードルが高くなります。現況は建物内に何ヶ所かトイレが分散しており、分散しているとジェンダーレスで使えるので、社会的な難しい問題などを議論しなくても整備できるというところがあります。ただ、数がまったく足りないので、数を増やしつつまとめないというのがトイレ設計の要点かもしれません。

(E委員)建物については、見せる部分と使う部分としっかり分けていくのがいいのではないかと思います。資料 5 の中で、修室棟は減築し樹木を入れる等、正反対のようなのことも書いてあるので、そういう部分は後で整理したほうがいいと思います。疑問なのは、建物と庭と外構の項目の中に、東側の大木を生かした公園のような通りにするとあり、私のイメージとは少し違うのですが説明いただけますか。

(事務局)これは第1回目が出た発想として、庭の東側に大木が並んでいて、道に張り出している樹木の下空間が街とのつながりの中でよい空間になるのではないかという考えのもと、塀があり外と区切られてしまっていることと、電柱が支障になっているのでなくなればよい通りになるのでは、という感想を含めた意見があったということです。

(B委員)電柱の地中化も想定していました。塀もあのままではいかないだろうということもあり、もう少し中が見えて、何がそこで行われているかがわかるような形にしないと、公園としての公開性が担保できないので、塀を考え直す時に塀の位置も含めて、例えば大木の内側にすることもあるかもしれないし、その辺りもいろいろ議論があってもいいのではないかと考えています。

(座長)塀はレーモンドの設計なのかという話もあったかと思いますが、その点はいかがでしょう。

(事務局)東側のコンクリートの塀については、構造図等も残っておりレーモンドの設計によるものです。ワークショップの中でも、貴重なものなので残すべきだという意見と、中での活動が窺い知れないのはよろしくないのでは、という両方の意見があり、閉鎖性を確保しながら透けて見える等、工夫していく余地があるのではないかという意見は多くありました。

(座長)確かにワークショップでは両方の意見がありましたが、あの塀は完全には撤去できないものなのではないでしょうか。

(事務局)敷地の高低差について、南側の門の辺りでは道路と敷地の高低差がほぼない状態ですが、そこから建物に向かって目視で 1m程度高くなっています。北に向かって道路と敷地の高低差がでてくる中で、道路に沿った大木の根が土留めの役割もしており、取ってしまうと根が透けて土が流れ出てしまうという可能性もありますので、道沿いには一定の擁壁は必要だと思います。ただ、バリアフリーの観点や駐車場等も含めて、外構については整備を考える必要があると思っています。

(A委員)庭の造園計画的な手法でいえば、少なくとも北側のエントランス辺りについては、庭の囲まれ感を出すために塀はあったほうがよく、レベル差や庭の高木との関係からいうと、あまり手を入れられないと思います。南側の門までは塀を残し、ただ、近隣の方がここを通る際に、いい空間があることを知っ

でもらうことはよい広告になるので、門から南は少し開く、例えば開き方も壁にスリットを入れるだけでも全然違って来るかもしれませんし、いろいろなバリエーションがあると思います。

(D委員)資料のテーマ2暮らしの変遷に関して、先日富岡製糸工場へ行き、そこには機械があったところは機械を残して実演等をやり、他の部分は「箱」はあるのですが最低限の改修のみで、当時の姿は映像や残っていた備品等を見せながらの再現展示になっていました。その再現は当時フランスから来た技術者を紹介するものなどで、基本的には工場ができた時と今という見せ方になっていましたが、働いていた女工さんの服装が7段階ぐらいマネキンに着せられていて、最初はフランス風であったものが和風になり戦時中の格好になりと、移り変わりから文化的な変遷が知れるようになっていました。ここでの場合、再現についてはオリジナルにすることでいいのですが、赤星鉄馬から陸軍、GHQから親族が戻り修道女会へと、例えばリビングはオリジナルでは居間だったが修道女会だとみんなが集まって食事をする場所だったとか、台所は大勢の人の食事を作るところになっていったとか、移り変わりが見えるということは、住宅であったことの良さであると思いますので、ハードを残すというところとは別に、見せ方で暮らしの変遷を見せられる工夫ができると良いと思いました。

(C委員)最終的には市民の方の憩いの場所になるということ、第一に考える方がいいのではと思います。個人的には、実際にメインの建物が残っているのが大前提で、それ以外のものは先ほどの塀を含めて利活用しやすい形で手を加えていくというのが大事であると思います。庭も全く同じような考え方でよいと思います。その時に大事にしたいのが、論点1のところのテーマ1、佇まいや雰囲気みたいなものが、この武蔵野の住宅地の中にある建物なので、市民の方々にとって日常空間とは少し異なっている空間という佇まいをどうやって残していくか、ということなのではないでしょうか。非日常ではなく「異」日常のような場所で愛でただけのようになればいいのではないかと、皆さんの話を聞いて思ったところです。

(座長)異日常というのはまさにその通りで、1934年の建物ということと、今そこに来た人との間の違いを感じてもらうのは、価値の一つと感じます。

(副座長)塀については貴重な文化遺産という考えで、とても重要な遺構という認識です。利活用にあたりネックになってくるのは解りますが、せっかく残っている古い遺構を壊してしまうのは少し抵抗があるというのが正直なところです。通りすがりの人が中の様子を見て入ってくるということではなく、中でいま何をやっているのかということとをどんどん情報として広報し、いろいろな場所で情報が取れるようにしておけば、塀があるからといって閉鎖的にはならないのではないかとはいえます。せっかく長い間残っている塀ですから、それは貴重な文化遺産だと考えます。暮らしの変遷の中でいろいろなものの形が変わっていくことはありますが、展示を作っていくときに、そういう要素を展示品として入れていくのはかなり無理があります。そうしてしまうと、視点が定まらない乱雑なものになってしまいがちです。展示空間としては瀟洒な空間を再現するような形で、変遷については違うコンテンツで情報を出すというやり方でも十分に伝わるといえますし、歴史館でそのような展示を行うといった、別の場所で情報を共有する仕組みも考えられるのではないのでしょうか。

(座長)武蔵野市内にもいろいろと展示できる場所もありますので、今話されたような案にとどまらず、いろいろな展示で協力や立体的な展開ができるところもあるのではないかとはいえました。

(E委員)建物や庭という部分だけの議論で果たしていいのか、例えば飛躍しすぎかもしれませんが吉祥寺のまちだとか成蹊学園のケヤキだとか先ほど話があった濱家住宅だとか、そのような周辺との関係性みたいなものが、全くはいっていないような気がしています。その辺りの視点をどう扱っていくのかは課題であると今思っています。

(A委員)私も同じように思っています、先ほどフランク・ロイド・ライトの話をしましたが、ライトも前川國男も近代建築や西洋化などといった流れの中にあって、建築は周りの緑との関係性の中で成り立ってい

るのではないと、造園の立場からは思うのです。ということは、ここでの学びや体験が、武蔵野市の緑の街づくりに広がっていくような話が、コンテンツとしてあるといいのではと思います。それと、収益性を利活用のところで最大限に発揮するということで、カフェは完全に収益性の話ではありますが、例えばショップなどはお土産を買っていけるようなものは、小銭かもしれませんが積み重ねれば大きくなると思いますし、レーモンドのオリジナルグッズなどを開発していくチームを構成したり、また個人工房と連携してそういうものを作っていくたり、そういう収益性も地味ですけど大事であると思いました。

(事務局)いま両委員が話されたことは、事務局の中でも課題として認識しており、今後はそういうところも含めて議論が必要だと考えています。資料4に記載の例えば岩崎小弥太や吉村順三、前川國男、柳田邦男なども、これまでの有識者会議の中では言葉としては出ていませんが、キーワードとしてはいろいろな関係性で繋がりがあり、またモダニズム建築というところから派生していくと、いろいろな要素にたどり着きます。以前、現代史や昭和史なども広く紹介してもいいのではという委員のご発言があったように、一つのキーワードから派生していく要素が実はたくさんあり、それがレーモンドと鉄馬の繋がりであったりしますので、その時代背景とも相まって、魅力あるコンテンツになっていくのではないかという事務局の思いもあります。論点4のなかで今後議論すべき事項として整理ができれば、今後の議論にも繋がっていく要素になるのではと思っています。

(5) 今後更に整理・検討すべき点について

(座長)今後更に議論していきたい方向などを最後にまとめておきたいと思います。論点1、2を今回議論しましたが、そこから漏れているものや、それ以降のものでも構いません。

(A委員)資料として整理しておかなくてはいけないのが、庭の経緯についてで、それは年表的に少しずつ加筆しながら精度を上げていくとよいと思います。

(B委員)レーモンドというのは日本の建築界にとっては、世界的な流れの中で日本を考えると、日本の古建築を考える際の、世界への扉のような人であったわけで、その部分を補足できるような資料は作っていった方がよいと思います。レーモンドは、第二次世界大戦が始まった時に日本に居られなくなって帰国するのですが、古い農家の建物を増築、改修してレーモンド・ファームというものを作るのです。そこで、日本人だということでキャンプに入れられてしまったジョージ・ナカシマという有名な家具デザイナーを引っ張り出して、自分のファームに住ませると、ジョージ・ナカシマはそこに小屋を作ってアトリエにしてそこで活動を始めたという話があります。また、レーモンドは戦争の時期にアメリカで何をしてたかという、爆弾の実験をするための疑似日本村のようなものを作ったりしていたようで、時期的に仕方ない部分もありますが、そういうものも含めてどこまで見せるかということについては向き合わないといけないとは思いますが。

(D委員)ワークショップでもオープンするときに詳細に決まっていなくてもいいというアイデアがあり、例えばレーモンドについても、参加者にすごく好きな方々がいろいろなアイデアが出てくるので、ここではそういうことを一定コンセプトとして示し、オープン後に更にそのコンテンツを充実させていく方法がよいと思いました。また、誤解がないように、先ほど変遷の話をしました。もちろんハードで変遷を表現したら收拾がつかなくなるので、それを写真パネルやデジタルで見せるなど、そういうものをどこかで知ればよいという考えです。今回の一般公開時の課題で家具や建具などの使われ方に不安があるという話ですが、どうしても利活用と保存のバランスは難しく思います。今回修道女会さんでよかったのは、必要などころは変えられていましたが、建物をすごく大事に使ってきていただいたということで、その変遷をうまく表現することで、大事に使われていた場所だということが伝われば、どんな活用をするとしても大事に使っていただけるのではと思います。

(F委員)テーマ1では建物と庭というハード面、テーマ2では人物をポイントに歴史や文化から広げていけ

ば、またいろいろなコンテンツが生まれていくと感じます。生涯学習の面から言うと、人気講座は歴史、文化、健康が3大人気コンテンツで、今回は建物の部分では歴史に関連するところがありますので、生涯学習の立場からは、ぜひとも3つのコンセプトでいろいろ事業を考えていただければと思います。

(座長)武蔵野市生涯学習のコンセプトとして「学び送り」というものがありまして、私たちが知っていることを次の世代にきちんと伝えていくというものを今やっていますので、そういう場にどう結びついていけばいいのかということは感じます。これから続いていくものの中で、起点となるところとして、少なくとも壊さないというのは大事であると思います。

(副座長)先ほど親族の方からの情報がありましたが、それはすごく貴重で、そういったオーラルヒストリーのようなものを文章化して記録として残していくということを、さすがにあまりに古い時代の方はもうおられません、少なくとも修道女会の時にいろいろ世話になった方などいらっしゃると思いますので、そういう人たちの聞き取りもできるだけ行って記憶に残すというのも大事なのではと思います。そういう姿勢もきちんと示して、活用に結び付けられるような情報収集することも必要なのではと感じます。別件で知ったのですが、二・二六事件で暗殺された渡辺錠太郎の次女がここにいらっしゃるって、その掛け軸が残っていて杉並区に入ったなど、そのシスターはお亡くなりになっているのでしょうか、その縁者の方からの聞き取りも資料として情報として整理するのも大事だと思います。

3. その他

(座長)その他の項目について、事務局よりお願いします。

(事務局)次回、第5回目の有識者会議は7月25日火曜日の 18:30 から武蔵野芸術劇場 小ホールにて開催となります。

4. 閉会

(座長)それではこれで第4回旧赤星鉄馬邸の利活用に関する有識者会議を閉会いたします。

以上